

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-021706

(43)Date of publication of application : 23.01.2002

(51)Int.Cl.

F03D 3/06

(21)Application number : 2000-205463

(71)Applicant : KUNINAKA MOTOO

(22)Date of filing : 06.07.2000

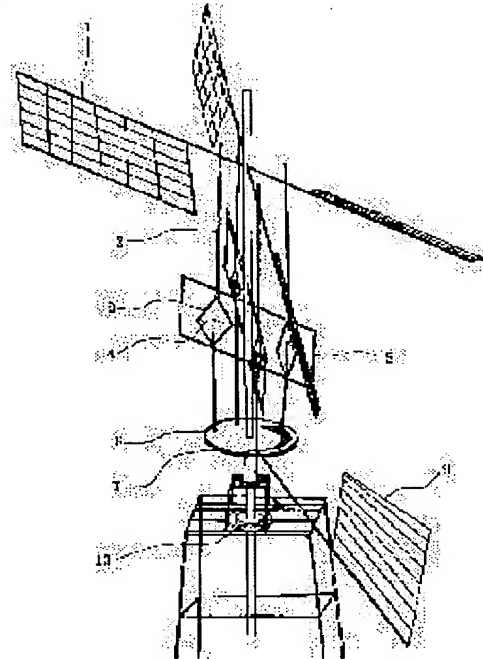
(72)Inventor : KUNINAKA MOTOO

(54) OPENING AND CLOSING TYPE WING POWER ROTATING MECHANISM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To effectively utilize wind for power generation.

SOLUTION: Flat plates different in a direction are mounted on the two ends of a core rod situated at the center of a rotary shaft. By an actuating rod actuated on a rotary disc, its directivity guides received wind efficiently and energy possessed by wind is effectively utilized.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-21706

(P2002-21706A)

(43) 公開日 平成14年1月23日 (2002.1.23)

(51) Int. Cl.⁷

F 0 3 D 3/06

識別記号

F I

F 0 3 D 3/06

サーチワード(参考)

E 3 H 0 7 8

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-205463(P2000-205463)

(22) 出願日 平成12年7月6日(2000.7.6)

(71) 出願人 390035194

國仲 基夫

沖縄県那覇市石嶺3-10-5

(72) 発明者 國仲 基夫

沖縄県那覇市首里石嶺町3-10-5

(74) 代理人 100086287

弁理士 伊東 哲也 (外1名)

Fターム(参考) 3H078 AA06 AA26 BB11 CC05 CC53

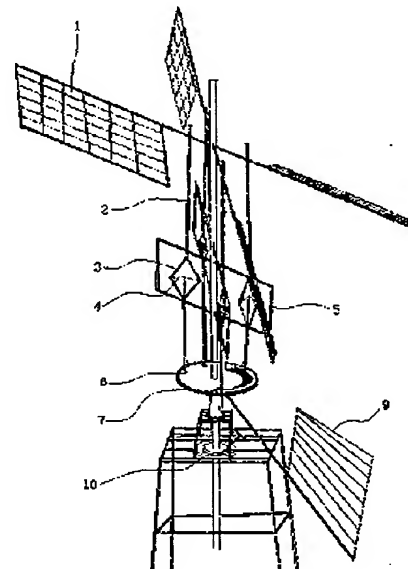
CC64 CC75

(54) 【発明の名称】 開閉式風力回転機構

(57) 【要約】

【課題】 発電等の動力活用(風)となり得る。

【解決手段】 回転軸を中心とした芯棒の両端に方向の異なる平板を取り付け、回転盤に作動する作動棒によってその方向性が受風を効率的に導き、風の持つエネルギーを活用するものである。



(2)

特開2002-21706

1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 円板に沿った一部に凸面を施設した回転盤に、作動棒の軸芯を作用させ、規則的に上下運動を導き、意図する対象物と作用する機構。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は風力による追従回転機構に関する。この機構は、例えば風力発電等の動力源に供することができる。

【0002】

【従来の技術】現在までの風力による回転機構は、プロペラ型に代表されるように受風翼は風向に対して一つのみの作動を用いている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は風力の有効利用による回転機構である。

①受風翼の効率の拡大

②現在までの風力機構の上下方向の広がりより、横面の拡大による効力の増大。

を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段及び作用】この機構は回転軸を中心として芯棒の左右に受風翼を配設し、一方の翼が風力利用には風向に対して垂直に並び、一方は風向に対して平面になり風の抵抗を減ずる。この翼の作動時の型の位置の変化が風の力を活用する。

【0005】構造上は受風翼を二つの方向に施設した芯棒に、ギアやカム等を用いて回転盤の凸面と作動する芯棒の上下運動によって、受風翼に活動性を持たせるものである。

【0006】

【実施例】以下、添付図面を参照に説明する。図1は本

発明の実施例に係る2枚羽根式の、図2は4枚羽根式の閉閉式風力回転機構の構成を示す。図において、1は受風翼、2は翼作動棒、3はテコ、4は鎖（または紐）、5はテコ固定棒、6は作動用ベアリング、7は回転盤、8は回転盤ベアリング、9方向舵、10はブレーキ、11は図1におけるA部分の拡大図、12はB部分の拡大図である。

【0007】9の方向舵は風向に応じて7の回転盤の向きを変える。7の回転盤は360度の方向性を持ち、9の方向舵によって凸面施設が活動性を持つようにセットされる。これにより6の作動用ベアリング部分が凸面に作動し、1の受風翼が二つの方向性を持つ。例えば、1の受風翼が順風方向に移る位置では効率的な受風が得られるように、風に対して垂直となり、逆風方向に移る位置では風の影響が少なくなるように、風に対して平行になる。これにより翼の風に対する姿勢が異なり、エネルギーの源が活用できる。

【0008】

【発明の効果】本発明によれば、回転軸を中心とした芯棒の両端に方向の異なる平板を取り付け、回転盤に作動する作動棒によってその方向性が受風を効率的に導き、風の持つエネルギーを活用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例に係る閉閉式風力回転機構の構成を示す図である。

【図2】 本発明の他の実施例に係る閉閉式風力回転機構の構成を示す図である。

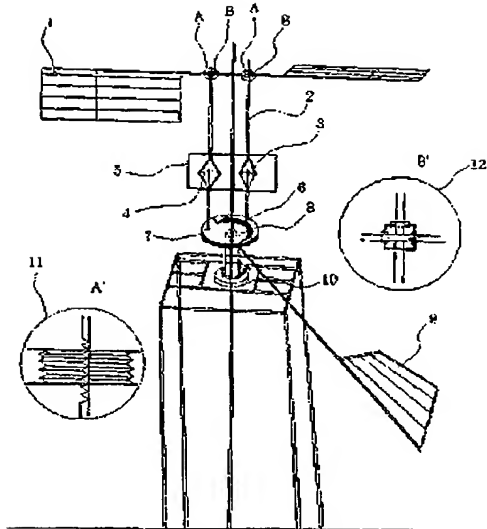
【符号の説明】

1：受風翼、2：翼作動棒、3：テコ、4：鎖（または紐）、5：テコ固定棒、6：作動用ベアリング、7：回転盤、8：回転盤ベアリング、9：方向舵、10：ブレーキ、11：Aの拡大図、12：Bの拡大図。

(3)

特開2002-21706

【図1】



【図2】

